事例概要(資料3) 2事例概要

# 多自然川づくり取り組み事例

: 大和川らしい河川環境を目指して ~ 自然再生計画を更新~

水系/河川名:大和川 河川分類 大河川

河川の流域面1070 セグメント:0

事業開始年度 平成18年度 :環境整備 事 0

: 0 目 標 設 定 段 階

課題・目的(主な)瀬・淵の保全・再生・創出、ワンド・たまり、 池沼の保全・再生・創出

工 法(主な): その他

配慮事項(主な): 河川景観への配慮、その他

# 背景•課題、目標設定

#### く背景>

昭和30年頃の大和川は、アユが奈良県まで遡 魚捕りや水遊びをする子供達の姿がみられた これまでの河川改修により、自然の河岸や河原 失われ、動植物の生息環境等も減少しているに 流域の地域開発が進み、人口の増加と下水道 の遅れによる水質の急激な悪化や外来生物の など、河川の環境も大きく変化した。



7,50 15.0

10.0



平均値

- 環境基準

を維持!

過去最も汚い水質 S45年 31.6mg/I

環境基準5mg/I(下流の一部区間 8mg/I 中上流部 5mg/I)

この状況を改善すべく実施された水環境改善に関する事業の により、水質は、環境基準を満足する状況まで改善。

アユが自然遡上するまでの環境が整ってきており、試行的に した各種整備も、魚種の増加などにより効果確認。

大和川全体に取組を広げるため、自然再生計画を見直すこと

# <課題>

■水質は環境基準を達成するまで改善しているが、 「遊べる大和川」「生きものにやさしい大和川」「地域で育む大 の目標像に向け取り組む。

■自然環境については、昭和期の河道の直線化や護岸整備 瀬・淵や水際植生が4割以上減少し、水際に形成されるワンドも

7割以上減少したことから、引き続き、生きものを育む生息・生育・繁殖環境の保全・再生が必要である。

# <目標>

■具体には、実践的河川環境管理から抽出された課題である、水際植生やワンドの貧弱さに対応するため、短期 的施策で得た知見・再生技術を活かし、現地にあった環境改善を全川に展開する。

# 取り組み内容・対策例(1/2)

■H31.3に、河川環境を定量的かつ俯瞰的に評価する手法である「実践的河川環境管理手法」が公表。

■大和川でも同手法を改良して適用し、500m区間単位での、環境課題を抽出。 『大和川版』への改良 ■ピッチ毎の評価値をもとに候補を選定 → 現地確認や実現性等を考慮し選定

●区間間隔を、500mピッチに細分化 <自然再生による効果も評価できるよ

実践的河川環境管理手法 河川管理に活用 ●瀬・淵の評価は、セグメントによらず評

●連続性の評価を追加

河川管理に活 用

大和川版 河川環境管理シート

①代表区間(=高評価箇所)設定 自然 ②課題がある区間※、環境要素ごとの

再生 評価 計画

③整備一次候補 の更

④現地調査および実現性の検討 新に

⑤ 整備箇所の選定 活用

※「課題がある区間」とは、代表区間より評価値が低い区間

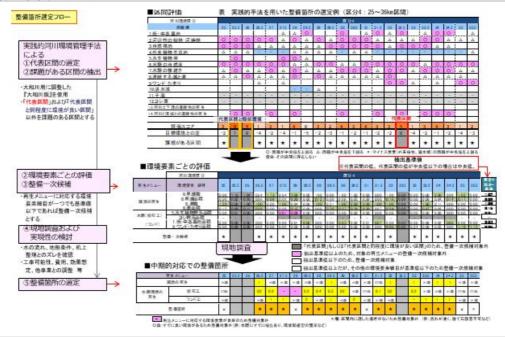
実践的河川環境管理手法を用いた大和川自然再生計画の更新手順





事例概要(資料3) 2\_事例概要

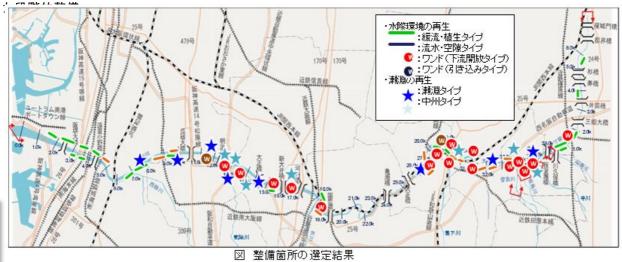
### 取り組み内容・対策例(2/2)



## モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

<今後の対応>

■現地調査を踏まえ、施工性や期待される効果等を考慮し、整備箇所を選定 → 改修、維持等の事業に合わせ



<アピールポイント>

- ・大和川では、河川整備計画に基づき、大和川らしい河川環境を目指し、減少した瀬・淵や水際環境の再生を実施してきた。
- ・これまでは、現地の<u>施工性及び、効果を確認するため限定的・試行的</u>に実施してきたが、施工後のモニタリングにより、良
- 好な結果が得られたことから、今後は、全川への水平展開を図る。

### 備考